

佐吉の蓄電装置(佐吉電池)その④

デンソー号(1950年)

戦時中からのガソリン不足が解消せず、むしろより悪化する傾向だった1950年にデンソー(当時:日本電装)が発売した電気自動車「デンソー号」は、電池とシャシーを除く主要な機能部品を自社で製造した電気自動車でした。ガソリン車と比べて高速・登坂性能などは低いものの、当時の市街地走行には十分な力を持っていました。しかし、鉛の異常な値上がり、ガソリン不足解消などの情勢の変化によって、生産は50台だけで中止となりました。

デンソー創立直前の1949年10月には実用的な製品化に向けて計画が練られており、計画立案からわずか9ヶ月足らずの短期間で走行試験まで行い、1950年7月から発売されました。電池は湯浅電池製および日本電池製のものを採用し、シャシーはトヨタ自動車(当時:トヨタ自動車工業)のものを使いましたが、モーターをはじめとする動力部は、デンソー内で製造しました。

蓄電池と電気自動車の研究

豊田喜一郎は、父・佐吉の遺志を継いで蓄電池の研究開発を推進しました。

1939年に東京の芝浦研究所跡に設置した蓄電池研究所では、電気自動車用蓄電池を製作し、その蓄電池と刈谷の電装工場製の不燃電動機を搭載したEC型電気自動車を試作しました。充電1回当たりの走行距離は60kmほどでした。そして、喜一郎が1941年にトヨタ自動車工業の社長に就任した後は、社長直轄の研究項目として研究を継続しました。

1940年に開発したBA型系乗用車シャシーを利用し、内製の蓄電池と電動機を装備した電気自動車6台を試作。当時、民間ではガソリンが使用できなくなっており、豊田利三郎会長と喜一郎社長の専用車として使用されました。

電気自動車 デンソー号市販
(50台 1950年)

EC型、中型電気自動車の試作
(喜一郎が通勤に使用) 1940年頃

模型展示

模型展示



EC型、中型電気自動車の試作
(喜一郎が通勤に使用) 1940年頃

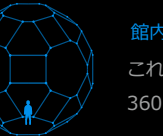


電気自動車 デンソー号市販
(50台 1950年)

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <http://www.tcmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.